

がん化学療法レジメン登録書

1 枚目

登録番号：

がん種/レジメン名				実施区分	適応疾患分類	抗癌剤適応分類	
①結腸癌における術後補助化学療法 ②治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌 CAPOX 療法				点滴静注 内服処方	日常診療（治療）	①術後補助療法 ②進行・再発・転移 1st、2nd、3rd、4th	
1 クールの投与期間 21 日/クール				備考（最大投与回数等）			
Day	投与順	薬品名（成分名）	投与量	単位	溶解液・液量	投与時間	投与ルート
1 夕～15 朝	1	デカドロン	9.9	mg	生理食塩液 50mL	15min	div.
	2	アロキシ	0.75	mg	5%ブドウ糖液 250mL	120min	div.
		エルプラット	130	mg/m ²		5min	div.
	3	カペシタビン	下表参照			分 2(朝夕食後)	p.o.
体表面積		1.36 m ² 未満	1.36～1.66 m ² 未満	1.66 m ² ～1.96 m ² 未満	1.96 m ² 以上		
カペシタビン投与量		2400mg/日(1200mg/回)	3000mg/日(1500mg/回)	3600mg/日(1800mg/回)	4200mg/日(2100mg/回)		

【投与開始基準】 ※大腸癌治療ガイドライン 2014 年版より

【投与量の減量基準】 ※適正使用ガイドより

項目	基準値及び症状
Stage(術後補助療法)	High risk Stage II 及び Stage III
白血球	≧3500/μL
血小板	≧100000/μL
T-Bil	<2.0mg/dL
AST 又は ALT	<100IU/L
血清クレアチニン	≦ULN
PS	(術後補助療法)0～1 (切除不能進行再発)0～2
重篤な合併症（特に、腸閉塞、下痢、発熱）	なし

【投与量の増量基準】

なし

オキサリプラチン、カペシタビン：

血液毒性	発現回数	オキサリプラチン	カペシタビン
Grade3	1 回目	100 mg/m ²	1500mg/m ² /day
	2 回目	85 mg/m ²	1000mg/m ² /day
Grade4	1 回目	中止もしくは 85mg/m ²	中止もしくは 1000mg/m ² /day

非血液毒性	発現回数	オキサリプラチン	カペシタビン
Grade2	2 回目	変更なし	1500mg/m ² /day
	3 回目	変更なし	1000mg/m ² /day
Grade3	1 回目	100 mg/m ²	1500mg/m ² /day
	2 回目	85 mg/m ²	1000mg/m ² /day
Grade4	1 回目	中止もしくは 85mg/m ²	中止もしくは 1000mg/m ² /day

【特に注意すべき副作用と対策】

<p>HFS…保湿剤、V.B₆ 予防投与。症状出現時ステロイド外用剤使用(当院での取り決め)、増悪時はカペシタビン休業及び減量。</p> <p>末梢神経障害…冷たいものを避ける。増悪時はオキサリプラチンを休業及び減量。</p> <p>消化器障害…悪心嘔吐にはアプレピタントの処方追加検討。下痢には高用量ロペラミド療法検討。</p> <p>白血球減少、好中球減少…症状に応じ、内服もしくは点滴静注にて抗生剤の投与、G-CFS 製剤の使用を考慮(FN 診療ガイドライン、G-CFS 製剤使用についてのガイドラインに準じ対応)。</p> <p>ヘモグロビン減少…症状に応じ、輸血を考慮(血液製剤の使用指針に準じ対応)。</p> <p>血小板減少…症状に応じ、輸血を考慮(血小板輸血に関してのガイドラインに準じ対応)。</p> <p>※当院作成の【外来化学療法施行患者における緊急時対応マニュアル】を参照する</p>
